

副 腎

古 井 滋*

撮影時間の短縮をはじめとする CT 装置の進歩によって、腹部 CT における正常副腎の描出率は著明に増加し、最近の装置ではほぼ全例で左右の副腎の同定が可能となっている¹⁾。副腎疾患についても、原発性アルドステロン症の副腎腺腫のような比較的小さな病巣の検出が可能となったことから、CT の臨床的価値が評価され、すでに各種疾患の CT 所見、他の検査法との比較、CT の使用法などについての検討も数多く行われている。

本稿では、当科で経験した症例といくつかの文献をもとにして、主な副腎疾患の CT 診断法について記載する。

副腎の CT は、臨床症状や内分泌検査の異常から、副腎疾患を疑って行われることが多い。このうち、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫は比較的頻度の高いものであり、外科的切除の対象となる副腎腫瘍の検出が CT の主な検査目的となる。

* Shigeru FURUI 東京大学医学部・放射線科